

4-1

演題	社会福祉法人がすすめる「福祉 DX」について
副題	

法人名	
施設名	若竹大寿会 法人本部

発表者名 (職種)	白神 誠敬
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	
TEL	
FAX	
メールアドレス	
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市内を中心に高齢者向け、障がい児・者向けの事業を展開中。多種類の介護保険サービスと障がい者総合支援サービスを提供する法人です。
---------------------------	---

はじめに

支援が必要な高齢者は増加していくにも関わらず、人材は獲得が難しいことから、福祉業界における DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進は必要不可欠です。

とはいえ、福祉業界において DX を進めようと思っても、業者からの営業の電話を受けたり、機器展での情報収集をしたりして、様々な機器を選ぶ際に、何から始めて、どう進め、どれを選べばいいのか分からないことだらけです。私達若竹大寿会でも、いろんな機器の導入の際の成功や失敗を重ねてきました。その結果を踏まえ、「若竹大寿会での DX の進め方」をご紹介します、これからの福祉業界での DX 導入のヒントとして発表させていただきます。

研究目的・PR ポイント

本研究は、今後も拡大していくと見込まれる「福祉 DX」の推進に対し、現状把握と未来設計を行うための手法やポイントを定めることを目的としています。

取り組んだ課題

- ・「福祉 DX」の進め方のステップを理解する
- ・「福祉 DX」のアプローチと成果を確認する

具体的な取り組み

若竹大寿会では多様な「福祉 DX」のステップを、3つのステップに区分けして、業務の DX 化を進めてきました。

- 「ステップ1 業務の棚卸」
- 「ステップ2 ムリ・ムラ・ムダ探し」
- 「ステップ3 機器の選定」

活動の成果と評価

この手法で DX を推進することで、業務の改善すべきポイントがわかる、必要な機能を備えた ICT ツールを選ぶことができる、機器の導入前と導入後の比較や成果を測定できるという成果が得られました。事例として、人事管理システムでは、ペーパーレス化等による事務負担の軽減、作業時間の短縮具合を定量的に比較することができました。人事評価システムでは、旧手順のムリ・ムラ・ムダ

の改善にアプローチしたことで、職員の処遇改善や法人の昇給・昇格の仕組みの効率化や加速に繋げることができました。

今後の課題

一つ目は、DX 人材の育成です。ICT ツールの導入のタイミングで今回の手法を通じたプロジェクト管理の流れやノウハウを経験・習得していただき次世代の DX 人材を育成していく必要があります。

二つ目は、DX 推進効果のフィードバックです。改善で得られた効率化の効果や資金ストックを、スタッフ処遇や働きやすさにどのように反映していくかを常に模索していく必要があります。

最後に、ICT 機器の導入を上手に進めなければ、福祉業界から無駄なコストを流出させてしまう危険性があることを常に意識しています。福祉業界の限りある収益をきちんと業界の推進やスタッフ処遇に還元していくために、適切で無駄のない、ミニマムな DX を進めることが重要と考えます。

参考資料など

内閣府 (2024)「令和 6 年版高齢社会白書」
公益財団法人 介護労働安定センター 令和 5 年度
介護労働実態調査